



令和2年3月18日

献血に積極的に取り組んだ医学部卒業生が学位記授与に併せて学部長表彰を受け、記念の献血をします（3月23日）

輸血に使用される血液の安定供給の必要性に加え、血液の成分である血漿を原料とする「血漿分画製剤」のうち免疫グロブリン製剤の国内需要が急増し、献血の必要性が高まっている一方、近年の若年層の献血率低下は、将来に向けた安定供給に支障をきたす恐れがあります。加えて、昨今の新型コロナウイルスの感染拡大で献血協力者が減るなど影響が出ています。

広島大学医学部では、将来医療に従事する学生の社会奉仕活動の一つとして継続的に献血の推進を行うこととしており、その一環としてこの度、積極的に献血等の活動に取り組んだ功績があった学生に医学部長から表彰状を授与することとなりました。今年度は在学中に40回の献血をした今田紘一郎さん（医学科）と13回献血をした岩井里紗さん（保健学科）に対し、3月23日、学位記の授与とともに、広島大学 秀道広 医学部長から表彰状を授与します。その後、23日午後5時に、今田さんと岩井さんは血液センターもみじ（広島市中区本通6-11）で卒業記念の献血を行う予定です。

2人の活動とは別に、2019年11月、広島大学医学部内に学生の自主的な活動として「霞ブラッドナース」同好会が発足しました。自らも献血に協力するとともに、血液事業に対する理解を深め、献血推進活動のあり方に取り組んでいます。さらに、広島県赤十字血液センターからの献血依頼に即時対応できるよう、献血協力者をあらかじめ募集し学生同士のネットワークの構築もめざしています。

2020年1月17日（金）には、メンバーが広島県赤十字血液センター（広島市中区千田町）を訪れ、献血された血液の検査や血液製剤に調整する工程の見学等、血液事業について学習しました。現在も、新型コロナウイルスの影響で献血協力者が減少している中でSNS(Twitter)を利用した献血の呼びかけ活動などを予定しています。

なお、2019年7月には、霞キャンパス内の将来医療の担い手となる学生等に献血推進パンフレットを配布して献血への協力を呼びかけるとともに、献血ルームに来所する献血者と医学部の学生、併せて約1,500人を対象に献血に対する意識調査を厚生労働省研究班の調査研究の一環として行なっています。

報道機関の皆様には、本学医学部の献血への協力と若年層の献血を増やそうと同世代の医学生が取り組む活動についてぜひ取材いただきますようお願い申し上げます。



(霞ブラッドナーズのメンバーと顧問の職員 於：2020.1.17)

【お問い合わせ先】

広島大学大学院 医系科学研究科 疫学・疾病制御学
教授 田中 純子

Tel：082-257-5162 FAX：082-257-5164

発信枚数：A4版 2枚（本票含む）